平成29年3月10日

保護者　各位

会津美里町立本郷中学校長　樋口　亨

**平成28年度学校評価および次年度の取組みについて**

生徒・保護者の「学校生活アンケート」結果をまとめました。その内容と日々の活動反省等を踏まえ、教職員による「学校評価」を実施しました。評価項目は本年度教育活動の重点事項をもとに、幼保、小・中の連携内容など包括的な事項です。

アンケートに表れる数値を元に全体的な把握をしました。大切にしたことは、わずかな数値の増減や平均値に満足したり勝手な解釈をしたりせず、現状を正しく認識し生徒一人一人の課題に対応していくことです。

今後の取組みについて、多面的に意見を出し合い組織的に検討してきました。本校生徒のよさと課題を正しく把握し、次年度の学校運営に生かしてまいります。

◎　真剣に授業に取り組んでいる　（生徒）＜知＞

◎　自分から進んであいさつをしている（生徒・保護者・教職員）＜徳＞

◎　履物をしっかりそろえている（「みさと運動」の実践）（生徒・保護者）＜徳＞

◎　清掃にしっかり取り組んでいる　(生徒)＜徳＞

◎　朝ごはんをしっかり食べている　(生徒)＜体＞

◎　積極的に運動(部活動)、体力づくりに取組んでいる(保護者)＜体＞

◎　チャイムと共に始まり終わっている(教職員)＜知＞

◎　学習課題を持たせて授業をはじめている(教職員)＜知＞

４－よくできている　３－できている

**評価の高かった項目（４･３評価が8割を超えた項目です）**

◎　先生は個に応じた指導をしてくれる　（知）

◎　「知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成」を掲げてきましたが、高い評価は、＜徳＞の３項目、＜体＞の２項目、＜知＞は３項目でした。

◎　多くの生徒が「授業に真剣に取組んでおり、わかる」と回答しています。学力向上の基本は授業であり、できるわかる喜びを学ぶ意欲につなげるよう指導してきました。さらに学びが定着するようドリル時間の確保や家庭学習に結び付けていきます。

◎　生活上のルールや授業規律は、「みさとの教え」とし学校生活の土台と位置づけて

即時指導を心がけてきました。多くの生徒、保護者がよく取組んでいると回答してい

ます。学力向上と規律は両輪として進めていきます。

◎　部活動への取組みはよくできています。文化部・運動部共に目標に向かい真剣に取組んでいます。声を掛け合い活発な活動が多く見られるようになってきました。さらに生徒主体の活動を生かし本郷中生のよさを伸ばして生きたいと考えています。

◎　他校生との交流や切磋琢磨、健全な競争意識は、本校生徒にとって大切なものであ

り、対外活動は視野を広げてくれます。しかし、休みの日に強化練習会や協会主催の

大会が入ってくる実情があり、全県的に負担加重への配慮が求められています。土日

のいずれは休みにする等の基本原則を確認しました。技能や体力の優劣だけでなく、

どの生徒も喜びと成長が感じる部活動運営と、生徒の思いと主体性を生かした活動を

目指していきます

◎　保健相談や生活習慣の基本について、保健室が中心になり実践し個別に指導してきました。保健だよりや地区保健委員会を通した呼びかけも行ってきました。

◎　その他、生徒会活動や文化祭実行委員会、各専門委員会等で意欲的な活動が見られました。特に秋炎祭では一人一人が役割を持ち活動する中で、互いのよさを再認識することができました。「あいさつ運動」や「基礎学力コンテスト」への取り組みが活性化しています。伝統となっている本校のよさを継続するとともに、生徒の自治力を伸ばし学校生活をさらに向上させていきます。

◎　陶芸とりんご栽培での学びは、本郷中学校ならではのものであり、地域の学校応援

団の方々にご支援いただいています。これらは地域理解や感謝の心を育てることにつ

ながっています。国・県指定の文化遺産である向羽黒や三十三観音など地域の文化・歴史にも目を向けていきたいと考えています。

△　個人の実態に応じて、個別に支援を行っている　（教職員）＜知＞

△　メディアコントロールの力を育成している　（教職員）＜体＞

△　悩みや困りごとを先生に相談している　（生徒）＜徳＞

２－あまりできていない　１－できていない

**評価の低かった項目（生徒・保護者共に２･１評価が１割強の項目です）**

□　授業を進める課題として個に応じた指導方法をあげています。一人一人の学びの深まりや学び方には違いがあります。一斉授業だけでなく、発表や意見交換の場を設

定するなど、自分から授業に参加する姿勢を育てていきます。

また、個に応じた指導は小規模校の強みとし、「全職員ですべての生徒に」の姿勢を基本に据え、一人一人のつまずきや課題を把握し指導に当たっていきます。教科の特質や学習の進め方を生かしつつ、全教科共通の基本事項を設定し実践していきます。

教育相談や個別補充学習を実施しました。わからないところを休み時間等に聞きに

来る姿が増えてきました。

校内授業研究会で、下記について確認し実践研究してきました。授業改善への意識を持ち具体的な手立てを講じていきます。次年度の重点事項として位置づけ、生徒の「深い学び」、「学びの習慣」に結びつけていきます。

**＜次年度に向けた大きな柱＞**

1. **ＱＵを授業で具体的に生かす**

**（ＱＵとは人間関係や悩みなどを総合的に捉える心理検査です）**

1. **授業中の発表を根拠を持ってできるよう指導していく。**
2. **本校生徒は「授業に不安を感じていない」のが大半であり、これを生かし基**

**礎・基本を定着させていく。**

1. **取組んできた「言語活動」を深化させ、主体的・協働的活動につなげていく。**
2. **指導(実践)と評価の改善サイクルを見直していく。**
3. **授業との関連を持たせ、家庭学習を充実させる。**

□　メディアへの対応は、全町、全県的に共通する現代の課題です。町のメディアコントロールへの取組みをていねいに継続していくと共に、ＳＮＳ活用の仕方やマナーなど、教育課程に位置づけて取組んでいきます。また、専門の講師を招いた学習会も予定しています。さらに、ＰＴＡとの連携や３校生徒会サミットを生かした取組みを考えています。

□　自由記述にも貴重なご意見をちょうだいしました。すぐに取り組めること、年間の

教育計画全体の中で、色々な活動と関連を図り位置づけていく内容、予算が伴うものなどを考慮し教育計画編成に生かしていきます。